中学校二年　チャレンジ　話すこと・聞くこと

この音声問題は、第二学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問いに答えてください。問題用紙は開かないでください。表紙のあいているところにメモを取ってもかまいません。

熊本中学校では、生徒の読書量を増やすために「一人年間五十冊読書」を目標として取り組みを進めています。生徒会の図書委員長になった内田さんは、町の図書館に行き、館長の坂本さんから、読書量を増やすためのさまざまな取り組みを学ぼうと考えました。会話の内容に気を付けて聞きましょう。

内田　こんにちは。わたしは、熊本中学校の内田と申します。今度生徒会の図書委員長になりましたが、みんなにもっと本を読んでもらうために、こちらの図書館のさまざまな取り組みを学ばせていただきたいと思って伺いました。

坂本　はじめまして。わたしは、この図書館の館長の坂本といいます。ところで、内田さんの学校では、みなさん、どれぐらい本を読んでおられますか。

内田　わたしたちの学校では、これまで、本を一人月に三冊読むことを目標にしていましたが、その目標は、ほぼ達成できました。そこで、今年は「一人年間五十冊読書」を目標にしました。

坂本　それは、すばらしい目標ですね。実は、わたしたち図書館関係者にも、今年は大きな目標があります。今年二〇一〇年は国民読書年です。「読書の楽しみを広げよう！」を目標に、読書の価値を見直すためのさまざまな取り組みが全国各地で行われているんです。

内田　そうですか。では、町の図書館ではどんな取り組みをされているのか教えてください。

坂本　この図書館では、読書の楽しみを広げる場として図書館を多くの人に活用してもらえるように、三つのことに取り組んでいます。一つめは、読書ボランティアの方に読み聞かせをしていただいていること、二つめは、読書に関する講演会を開いたこと、三つめは、この図書館オリジナルの「読書ノート」を作ったことです。

内田　いろいろな取り組みをされているのですね。三つめの「読書ノート」というのは、どのようなものですか。

坂本　「読書ノート」とは、どんな本をいつごろ読んで、どんな感想を持ったかを記録するものです。以前から、自分が読んだ本の記録を残せるものがあればいいというご意見があったので、オリジナルの「読書ノート」を作って希望される方にお配りしました。みなさん、とても喜んで活用していらっしゃいますよ。

内田　そうですか。それはとてもいいアイデアですね。

坂本　「読書ノート」には、二つのよさがあると思います。一つは、「読書ノート」を書くことで、自分の読書の傾向が分かり、読書の幅が広がるということです。もう一つは、だれかに自分のお気に入りの本を紹介する時などに役立つということですね。

内田　自分の読書の記録をとることが、読書量を増やすことにもつながるということですね。わたしたちの学校でも参考にさせていただきます。最後に、館長さんからわたしたち中学生に向けて何かメッセージをいただけませんか。

坂本　そうですね。読書には、さまざまな楽しみがあります。本を読むことで、ほかの人の考えを知ったり、ストーリーに感動したり、新しい知識を得られたりします。このような読書のすばらしさを、もっと多くの中学生のみなさんに知ってもらいたいと考えています。

内田　ありがとうございました。学校に戻ったら、できるだけ多くの人に、読書のすばらしさを呼びかけたいと思います。

坂本　わたしも、いろいろとお話ができてよかったです。「一人年間五十冊読書」の達成に向けて、がんばってくださいね。

放送はこれで終わりです。

それでは、問題用紙を開いて始めてください。